

ジオパークにおける時空間的ジオストーリーの地域融合への貢献

ー石川県・白山手取川ジオパークを事例にしてー

Contribution of Spatio-Temporal Geostory to the Regional Unity in the Geopark: A Case Study of Hakusan Tedorigawa Geopark in Ishikawa Prefecture

下里 直生*・菊地 俊夫**

Naoki Shimozato Toshio Kikuchi

摘 要

本研究は、白山手取川ジオパークの活動を対象にして、時空間的ジオストーリーが地域融合にいかに関与できるのかを検討した。ジオパークが発展するためには、地形・地質遺産などに基づくジオポイントやジオサイトを複数組み合わせることによりジオストーリーが地域の内発的な活動に基づいて構築されなければならない。その場合、地質学的なストーリーと地理学的なストーリーを組み合わせた時空間的ジオストーリーの構築が重要になる。この時空間的ジオストーリーを構築することにより、ジオポイントやジオサイトの組み合わせだけでなく、それらのまとまりからなるジオエリアの組み合わせも可能となり、地域のつながりや一体性が強調できるようになる。つまり、時空間的ジオストーリーは地域融合に貢献する可能性が高い。

1. はじめに

ジオパークは、地球活動によって生じた地形・地質遺産、およびその地域の生態系や歴史伝統・生活文化を見どころとする自然公園の1つである。ジオパークの目的は地形・地質遺産の保護や保全に加え、それらを観光や教育活動に利用することで地域の持続的な振興を図ることである。ジオパークの認定と審査は世界ジオパークネットワーク (GGN) がユネスコの支援を受けて行っており、日本国内では日本ジオパーク委員会 (JGC) が審査と認定を行っている。ジオパークの活動は地域の持続的な振興を目的とすることから、国内の多くの地域で地域活性化の切り札的な方法として注目されている。2015年9月現在、日本国内ではGGNから認定を受けた世界ジオパークが7地域、JGCから認定を受けた日本ジオパークが32地域あり、その他に多数のジオパーク申請準備地域が存在している。これらの申請準備地域も遅かれ早かれ地域の整備が進むにつれて、日本ジオパークとして認定されていくと考えられる。

竹之内 (2014) は基盤としての地形・地質、動植物

とそれらの生態系、および人びとの歴史伝統や生活文化をジオパークが扱う素材として挙げている。それらの素材ないし複数の素材の組み合わせがジオサイトであり、ジオサイトの活用の手法は保護・保全を前提とした観光や教育への利用が望ましい。ジオサイトの観光や教育利用において、地形・地質や動植物などの生態系、および歴史伝統や生活文化、さらに地域の産業を相互に関連づけたジオストーリーが構築され、活用されている。ジオストーリーは観光客にジオサイトの価値を伝える工夫でありジオストーリーを実際に観光や教育に反映させるには、地域の内発的な活動が不可欠となる (大野 2011)。具体的には、ジオパークの活動主体となる地域固有の運営組織とその持続可能な運営計画、および地域住民による下支え的な活動実績が必要とされている (渡辺 2014)

以上に述べてきたジオパークの理念を踏まえ、本研究はジオパークの認定に求められる各素材 (ジオポイントやジオサイト) の相互関連や組み合わせに着目し、各素材を相互関連させるジオストーリーの構築と、その構築にともなう地域融合の関係について考察を加えジオストーリーの構築とその活用による地域融合への影響を明らかにすることを目的とする。ここで言及する地域融合は従来の行政単位を超えた住民組織による地域づくりやまちづくりの展開に資するものであり、

*首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (9号館)

e-mail ru-to@hotmail.co.jp

**首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

e-mail kikuchan@tmu.ac.jp

多くの地域住民が既存の行政単位の枠組みを超えて地域事業に参画するようになることである。そのことは、いくつかに分化した地域が一体性をもってまとまることでもある。地域活性化の成功への一歩は、地域のさまざまな主体が地域的な課題を把握し、それらを解決するためのまとまりあるパートナーシップをもつことである。このようなパートナーシップを構築する手段として、ジオパークが有効なものとなることを本研究は明らかにしていく。

ジオパークにおいては、ジオポイントやジオサイトの設定と、それらを複数組み合わせたジオストーリーの構築が重要であり、ジオポイントやジオサイトの相互関連に基づいて組み合わせが地域融合を促す基盤となっている。ジオパークで考えられるジオストーリーは、時間的なスケールに基づく地質学的なもの、空間的なスケールに基づく地理学的のものと大別できる。ジオストーリーは時間的なスケールと空間的なスケールを合わせることで有意で深淵な説明となる。つまり、地質学的なストーリーと地理学的なストーリーを合わせたものが、時空間的ジオストーリーとなり、時間的なスケールと空間的なスケールを重視することで地域融合を促す1つの原動力となる。なぜなら、地質や地形の現象は決して行政単位で完結しないためであり、それらに基づく人間活動の広がりも1つの行政単位でまとまるものでないためである。

表1 日本ジオパークにおける運営母体の構成
(2015年8月現在)

運営母体の構成		該当するジオパーク	該当数
単独市町村	平成の大合併以前	室戸・伊豆大島・鏡子・三笠・下仁田・アポイ岳・ふくい勝山・佐渡・姫島・桜島・鹿追	12
	平成の大合併以後	糸魚川・白山手取川・八峰白神・ゆざわ・西予・豊後大野・白滝・秋吉台・栗駒山麓	9
複数市町村	単独都道府県	島原半島・隠岐・阿蘇・白滝・洞爺湖・隠岐・南アルプス・磐梯山・秩父・箱根・伊豆半島・南紀熊野・黒部立山・天草	14
	複数都道府県	山陰海岸・苗場山麓・三陸・霧島	4

(日本ジオパークネットワーク資料より作成)

現在、日本で行われているジオパーク活動の運営組織の構成を表1にまとめた。これによれば、ジオパークの運営組織の構成の多くは複数の市町村であり(18地域)、それらが複数の都道府県にまたがっているものも少なくない(4地域)。また、現在において単一市町村で計画されているジオパークであっても、平成の

大合併で成立した市町村がジオパークの範囲になっているものも多い(7地域)。平成の大合併で成立した自治体の大きな問題は、合併以前の市町村を合併後の自治体としていかに一体性をもってまとめるかである。平成の大合併で成立した自治体の1つに糸魚川市があり、合併後の糸魚川市の地域的なまとまりや地域アイデンティティの構築にジオパークが一定の役割を果たしてきたことは、竹之内(2014)においても指摘されている。したがって、本研究も時空間的ジオストーリーの構築が果たす役割を検討するため、平成の大合併の自治体によって構成された糸魚川ジオパーク以外のジオパークを対象とし、白山手取川ジオパークを事例地域に抽出した。

II. 白山市と白山手取川ジオパークの概要

白山手取川ジオパークを構成する自治体は石川県白山市であるが、白山市は2005年の合併により誕生した新しい自治体である。白山市は石川県南部に位置し、東は石川県最大の都市である金沢市と隣接し、西は小松空港が立地する小松市に隣接している(図1)。白山市の市域は755.17km²と石川県の約20%を占め、東西34.8km、南北に55.6kmと南北に長く広がっており、市域の南端は標高約2,700mの山岳地(白山)、北は手取川扇状地の平野となっている。このように、白山市は合併前の旧市町村間において自然環境やそれを基盤とする人口分布に地域差があり、市としての地域的まとまりも地域アイデンティティも比較的希薄であった。そのような希薄さを解消することも、ジオパーク認定やジオストーリー構築の1つの目的であった。



図1 石川県白山市の位置

白山市は 2005 年の合併特例法の期限切れに伴う合併、いわゆる平成の大合併で 1 市 2 町 5 村（松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村）の合併により誕生した自治体である。2005 年の合併後に白山市企画課によって策定された「白山市総合計画」によれば、旧市町村間の連携や相互関連性、および地域的なまとまりの強化が将来的に解決すべき課題として挙げられていた。旧市町村間の連携や地域的なまとまりの強化が課題となった背景は以下に述べる白山市成立の経緯が大きく、石川県の自治体に関する合併計画については森川（2013）によって詳しく述べられている。

森川（2013）によれば、日本の市町村合併においてはそれを計画する複数の自治体から構成される合併協議会が設置され、詳しい合併計画が練られることが一般に行われてきた。合併計画を練る段階において一部の自治体が協議会を脱退する場合も少なくないが、石川県では合併協議会設立以前に十分な協議が行われており、合併協議会設立後に自治体が協議会を脱退することはほとんどなかった。しかし、白山市の場合は石川県の他の自治体の合併と様相を異にしていた。

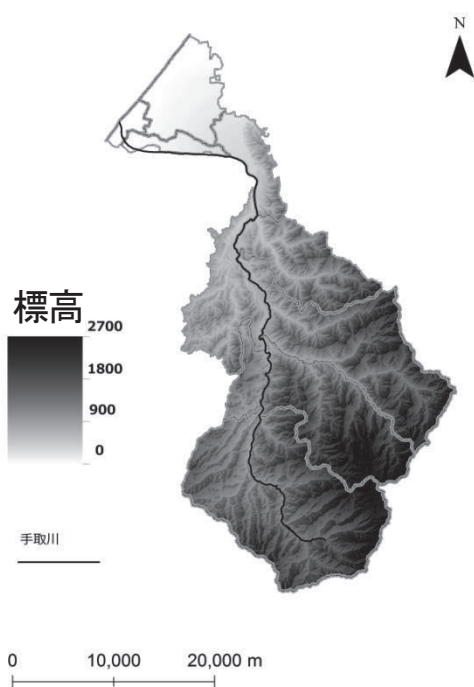


図 2 白山市の標高分布図

（基盤地図情報 10m メッシュにより作成）

平成の大合併では合併特例債の発行と地方交付税の削減といった政策を背景にして合併が進められたため、人口規模の小さい中山間地域の自治体が合併を強いられる結果となった（森川 2013）。合併計画は都道府県

により理念や手法に地域差がある。石川県の合併要綱は市町村の最少人口の基準を定め、その基準以下の市町村を合併するというものであった。この計画では基準以上の人口をもつ市町村は基本的に合併の対象にならなかったため、白山市以外では 2~4 市町村での小規模な合併がいくつか行われたにすぎなかった。

石川県により提示された合併要綱では、白山麓に位置する鶴来町、鳥越村、河内村、白峰村、尾口村、吉野谷村の 1 町 5 村の合併はさまざまなパターンで計画されたが、松任市と美川町を含む現在の白山市のような広域に及ぶ合併計画は提示されていなかった。

にもかかわらず、現在の白山市のような広域合併が行われた理由は、金沢市による合併論議の拡大があった。石川県の合併要綱では、人口と経済の規模の大きい金沢市の合併は計画されていなかった、しかし、金沢市は市町村合併により人口規模を大きくし、政令指定都市を目指すという目的で、周辺市町村に対して積極的に合併協議をもちかけた。人口規模が小さく、合併の必要性に迫られていた白山麓の 1 町 5 村は金沢市からの合併協議を受けたが、松任市も金沢市に対抗して白山麓 1 町 5 村に合併協議をもちかけた、松任市は白山麓 1 町 5 村との消防やごみ処理・医療などで広域行政をすでに行っており、金沢市と白山麓の合併によって従来の広域行政が崩壊することを危惧しての合併協議であった。

以上に述べたように、白山麓 1 町 5 村には金沢市もしくは松任市・美川町との合併という 2 つの選択肢が提示された。白山麓 1 町 5 村内でも合併に関する意見がまとまることはなく、鶴来町は松任市・美川町との合併を先立って決定したが、5 村では金沢市との飛び地合併までもが検討された。しかし最終的には、合併に関しての村民アンケートの結果と手取川流域という地域性や地域の自然的なまとまりを考慮して、松任市・美川町との合併が決定した。このような経緯に基づいて、白山市が 2005 年に誕生した。これは地域性や広域行政を優先した広域市町村合併であり、合併のメリットが目に見える形であらわれることはほとんどなかった。そのため、新しく成立した白山市の課題は合併のメリットを示す具体的な都市計画と、広域で複数の旧市町村間をまとめる方法を構築することであった。そこで、白山市は合併の拠り所の 1 つとなった一体性や地域性を形あるものとして内外に示すため、手取川とその流域や扇状地をテーマとするジオパークの事業と活動を開始した。

Ⅲ. 白山手取川ジオパークにおける地域融合

3.1 時空間的ジオストーリーの構築

合併によって新しく誕生した白山市は、南北に延びる広大な市域をもち、標高に基づく気候環境や植生の地域的差異が顕著であり、ジオパークの要素は多種多様である。それは、ジオ多様性の典型的な様相を呈している。そのため、市域全体で共有できる自然的な要素が必要であり、市域を貫流する手取川が白山手取川ジオパークの全地域で共有できるアイデンティティとして採用された。したがって、ジオストーリーは手取川を中心にして構築されてきた。白山手取川ジオパークの全体的なテーマは「山―川―海そして雪、いのちを育む水の旅」となり、手取川の上流から下流までの水流の形態の違いや水の土地への作用の仕方の違いに着目してストーリーの構築が試みられた。この流域で暮らす人びとは「水の旅」による水の恩恵を受けるとともに、さまざまな水の脅威にも備えてきた。そのような人びとの生活の文化や歴史伝統を含めてジオストーリーが検討されてきた。当然のことながら、白山に降る大量の雪が「水の旅」の始まりであり、それが日本海に流れ込むまでに侵食や堆積などさまざまな土地への作用を繰り返しており、一連の「水の旅」は人びとの生活文化の形成に大きな役割を担ってきた。

このように、白山手取川ジオパークにおける「水の旅」の全体的なジオストーリーを地域的に明確にするため、ジオパークの領域（白山市域）は「山と雪のエリア」と「川と峡谷のエリア」、および「海と扇状地のエリア」の3つに区分されている（図3）。

3つのジオエリアは日本海形成を1つのテーマとして時間的推移（地質学的なストーリー）に応じて区分されている。具体的には、日本海形成以前の大陸時代の地層（山と雪のエリア）と日本海形成に関連した地層（川と峡谷のエリア）、および日本海形成後の地層（海と扇状地のエリア）に対応して、白山手取川ジオパークは3つの副次的なジオエリアに区分されている。

このように3つのジオエリアは手取川の上流・中流・下流（地理学的なストーリー）に対応しており、地質地層の新旧と相まって、上流から下流までの「水の旅」は時空間的ジオストーリーになっている。

それぞれのエリアでは地域資源となるジオポイントが立地し、複数のジオポイントを特定の小テーマでまとめたジオサイトが設定されている。例えば、「山と雪のエリア」では、日本海形成以前の6000万年前の地質地層がジオポイントの中心となり、手取層群の基盤岩石や季節風のもたらす豪雪がジオストーリーの基軸になっている。「川と峡谷のエリア」では、2000万年前の日本海形成期の火山活動などのジオポイントを中心として、隆起による段丘や侵食による峡谷がジオストーリーの主要部分になっている。他方、「海と扇状地のエリア」では、日本海形成後の300万年前以降のジオポイントを中心にして、堆積作用による扇状地の形成がジオストーリーの基軸になっている。以上に述べたジオエリアごとのストーリーは、「山と雪のエリア」は主に旧白峰村・旧尾口村・旧吉野谷村で、「川と峡谷のエリア」は主に旧鳥越村・旧河内村で、そして「海と扇状地のエリア」は主に旧松任市・旧美川町・旧鶴来町で展開していた。

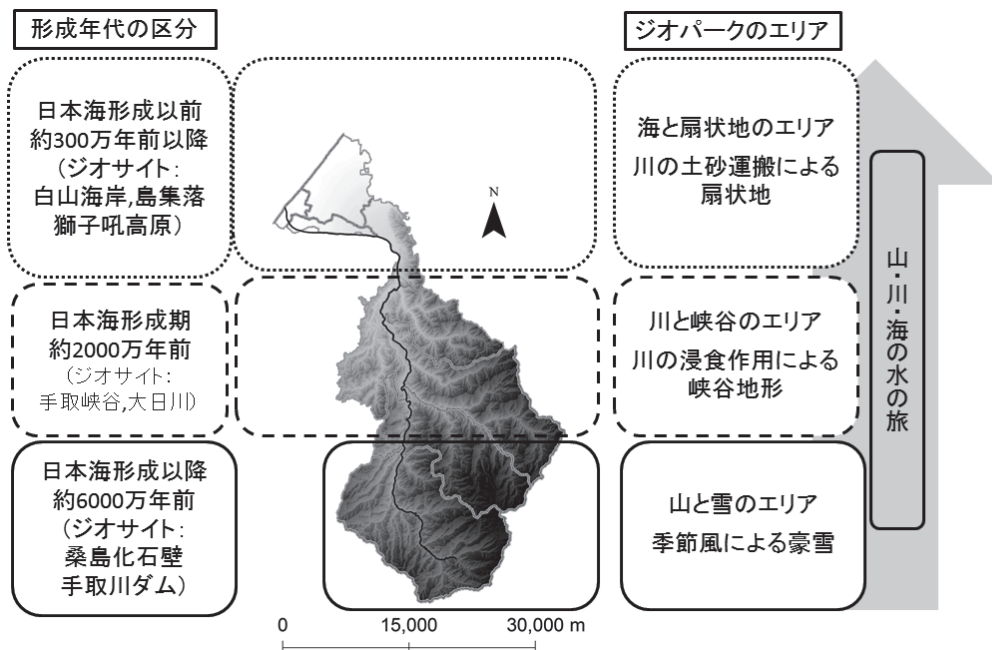


図3 白山手取川ジオパークのエリア区分

このような時空間的ジオストーリーの構築によって、白山市の上流の山間地区と中流の地区、および下流の扇状地の地区との地域融合が図られると、自治体やジオパーク活動を推進してきた担当者は考えていた。次に、ジオストーリーに連動した地域融合の実態を検討するため、ジオパークに関連する組織とその活動内容を検討する。

3.2 白山手取川ジオパークの活動

白山手取川ジオパークが本格的に始動するにあたり、白山手取川ジオパーク推進室が白山市役所内に設置され、その推進室が中心となり白山手取川ジオパーク協議会を企画し、ジオパーク設立後も推進協議会の事務局としてジオパークの活動を継続的に行ってきた。推進協議会には行政や研究機関、および学校教育機関といったさまざまな公的な組織だけでなく、白山市観光ボランティアガイド協会や各地区の観光協会、あるいは商工会といった多くの市民団体もジオエリアごとに含まれている。これは、白山手取川ジオパークの活動の目的が地質・地形遺産の保護保全とともに、新しい市の統合と一体感の醸成になっているためである（白山手取川ジオパーク推進協議会 2011）。したがって、ここでのジオパーク活動の大きな特徴は、参加団体の地域的な、および組織的な多様性にあり、個々の団体による活動が進められている。

白山手取川ジオパークで行われた事業について2012年のものを表3にまとめた。これによれば、事業は「啓発事業」、「ガイド養成事業」、「学習支援事業」、「ジオツアー事業」、「補助事業」の5つに分けられており、とりわけ地域住民へ向けた「啓発事業」

と「学習支援事業」、および観光客を対象とした「ジオツアー事業」が活動の中心となっている。

例えば、「啓発事業」では市職員へ向けたジオパーク学習会と元小中学校教員を対象とする白山市学校教育研究会、あるいは各種の出前講座などで、ジオパークに関する基礎的な理解が促され、地域資源やジオ資源を認識を推進している。さまざまな「啓発事業」のなかでも、出前講座は2012年に35回開催され、延べ2,100人が参加した（1回当たり約60人）。また小学生や中学生を対象とした「学習支援活動」として、ジオパークを利用した遠足や野外実習が白山市内の小学校と中学校の7校で行われている。つまり、「啓発事業」や「学習支援事業」などにより、ジオパークやそれに関連した地域資源・ジオ資源を学ぶ機会が多く提供されている。

地域融合は「啓発事業」や「学習支援事業」として、白山市域全体の資源を活用した時空間的ジオストーリーに基づく遠足や野外活動の実施で促進されている。しかし、地域融合の効果は3つのジオエリアを活用する「ジオツアー事業」によってより確かなものになっている。2014年に実施されたジオツアーを表4にまとめた。

これによれば、ツアーの集合場所は「山と雪のエリア」に立地する白山砂防館と「海と扇状地のエリア」に立地する千代女の里俳句館のようなジオエリアの拠点施設が多く、金沢駅や松任駅のような交通拠点も集合場所になっている。このような集合場所の違いは、ガイドツアーの団体の性格や主に訪ねるジオエリアの特徴を反映している。

表3 2012年度白山手取川ジオパーク活動実績

事業名称	事業詳細	開催回数	参加者・団体数
啓発事業	ジオパーク学習会の開催	市職員へのジオパークに関する研修	約150人
	白山市学校教育研究会	元教員などの教育関係者での研修	約500人
	関西学院大学白山麓実習	関西学院大学と白山麓での実習事業	約40人
	ジオパーク出前講座の開催	市内の公民館でのジオパークに関する講座・講演	35回 2135人
	子どもジオパーク博士の養成	児童を対象としたジオパーク実習	10人
ガイド養成事業	子ども実験教室の開催	「ジオを体験する親子実験教室」の実施	約50人
	ジオガイドの養成	ジオガイドの養成講座の実施	10回 15人
学習支援事業	学校教育におけるジオパーク学習支援	市内の理科担当教諭への教育研修	約60人
		ジオパーク学習支援制度の開始	7人
		ジオサイトを用いた遠足の実施	4校
		小・中学校での野外活動及び授業支援	7校
ジオツアー事業	ジオツアーの実施	学童クラブでの学習支援	4クラブ
		協議会主催でのジオツアー実施	17回 228人
		各種団体主催でのジオツアー実施	35回 930人
補助事業	多様な担い手による共同モデル事業	水の旅案内人認定	13店・57人
		白山ジオろーるの販売開始	5店舗

(空欄は開催回数の詳細不明)

(2012年度白山手取川ジオパーク活動実績報告書より作成)

表4 2014年白山手取川ジオパークでのジオツアー

No	ジオツアー名称	開催日	集合場所
1	白峰の暮らしは自然との共生 百万貫の岩の誕生を尋ねる	8/23～11/2の土日祝日	白山砂防館
2	自転車で碑めぐり(芭蕉・凡兆・若推)	9/7	石川ルーツ博物館
3	一向一揆の里・鳥越に歴史と自然を学ぶ	9/27	道の駅一向一揆の里
4	紅葉の白山 ミニ縦走を楽しむ	10/4～10/5	JR金沢駅
5	紅葉燃える スーパー林道と三方岩岳トレッキング	10/12	JR金沢駅/JR松任駅/北陸鉄道鶴来駅
6	白山砂防ダムと白山ろく民族資料館体験見学	10/18	JR金沢駅/JR松任駅/北陸鉄道鶴来駅
7	コスモスゆれる手取キャニオンロード・サイクリング	10/19	白山市鶴来支所
8	古地図で松任めぐり	10/21	千代女の里俳句館
9	紅葉真っ盛り 大林フナ原生林周辺散策	10/25	白山一理野温泉スキー場
10	ジオ味抜群! 紅葉の河合鉱山と白山麓巨木めぐり	10/26	JR金沢駅/JR松任駅/北陸鉄道鶴来駅
11	ジオの恵み(秋編) 里山キノコ探検隊	11/2	河内村福岡集会所
12	全山紅葉ミステリーゾーン探検とマタギ料理を満喫	11/8	白山一理野温泉スキー場
13	鮭のつかみ取りと鮭料理	11/16	JR小舞子駅
14	千代女の里のジオ巡り	11/26	千代女の里俳句館

白山手取川ジオパークのテーマは時空間的ジオストーリーに基づいて3つのジオエリア、あるいは手取川流域の上流から下流までの地域を融合させるものであった。しかし、実際のジオツアーの多くは、下流域の拠点施設や交通拠点を集合場所にして、1つのジオエリアないしは隣接する2つのジオエリアを結びつけるものになっている。このようなジオツアーの実態は、ツアーを運営する主体の事情によるところが大きい。白山手取川ジオパークでジオツアー事業を行っている組織は、主に白山市ボランティアガイド協会と株式会社ホワイトリングの2団体である。

白山市ボランティアガイド協会は拠点施設を集合場所とするジオツアーを中心に行っている。この団体の前身は白山市の誕生以前からそれぞれの旧市町村において組織されたガイド組織であるため、ジオツアーやガイドツアーは旧市町村のジオエリアを中心としたものにならざるをえない状況になっている。事務局の運営は「加賀白山ようござった」という白山市1町5村を本拠地とするNPO 団体が行っており、その団体は市町村合併以前から手取川流域の観光事業を精力的に進めていた。基本的には、ジオツアーとして企画したものの多くは従来行っていたツアーにジオの要素を加えたものになっている。白山市の合併後白山市ボランティアガイド協会の設立によって、旧市町村ごとのガイド組織の協体制は構築されたが、白山市の範囲が広大であることや、海岸から山麓までの簡便な移動手段がないため、1つのジオエリアないしは2つのジオエリアのツアーが一般的なものになっている。つまり、時空間的ジオストーリーを活用した手取川流域全体のツアーの実現は難しく、合併当初に考えていた地域融合は未完成の状態にあった。

他方、白山市全域を対象にバス事業を展開する株式会社ホワイトリングが地域観光を促進する目的でジオツアーの事業に参加するようになった。株式会社ホワ

イトリングは旧尾口村に立地する高原ホテルが中心となり、2013年に地域限定旅行業の指定を受けてジオツアー事業を開始した。地域限定旅行業は取得した会社が立地する市町村とそれに隣接する市町村での営業活動に限定した旅行業の資格である。株式会社ホワイトリングは集合場所がJR金沢駅となる4つのジオツアーを行っている。これらのジオツアーは、観光バスを利用してアクセスの悪い白山周辺のジオポイントやジオサイトを周遊させるもので、複数のジオサイトやジオエリアを連携させて利用することができる。このジオツアーの特徴は、時空間的ジオストーリーに基づいて、3つのジオエリアを手取川の上流から下流に、あるいは下流から上流に周遊できることであり、そのことは手取川流域としての地域の一体性を強調するものとなっている。

具体的にはNo.4のジオツアーでは観光道路である白山スーパー林道(現白山白川郷ホワイトロード)を利用し、観光道路から見る事の出来る中流の地域が何故できたのかを上流の地域と重ね合わせて解説するなどといった方法がとられている。

以上に述べてきたように、ジオパーク事業の開始後、従来の観光団体によって個々のジオエリアとそれに含まれるジオポイントやジオサイトのジオストーリーが活用されてきた。この段階では、手取川流域の一体性を強調したり、地域融合を図ったりするジオツアーの実施は難しい状況であった。それは、交通アクセスの問題からジオパーク全体を俯瞰するツアーがないためであり、時空間的ジオストーリーが活かされていないという欠点もあった。しかし、特定の活動主体が白山市全域を営業範囲とする地域限定旅行業の資格を取得することにより、時空間的ジオストーリーを地域全体にわたって利用する事ができるようになった。調査時点では単一の観光団体が地域全体を対象としたツアーを行うにとどまっているが、ジオサイトの内発的な利

用が始まっているといえる。

IV. まとめ

本研究は、白山手取川ジオパークのジオポイントやジオサイトの分布と、それらのまとまりとしてのジオエリアを確認した。それらは、地質地層年代による時間的なストーリー（地質学的ストーリー）と、水の上流から下流までの流れやその作用に基づく空間的なストーリー（地理学的ストーリー）によって特徴づけられている。それらの特徴に基づいて、時空間的ジオストーリーを構築し、手取川流域の一体性や合併後の地域統合を図ることが白山手取川ジオパークの達成すべき目的の1つであった。ジオパークの目的を達成するため、地域住民への啓発事業や学校教育支援事業が行われてきた。結果として、地域住民のジオパークに関する理解や認知、地域資源とジオ資源への認識は深められたが、それらが手取川流域の一体性や地域融合に貢献したかは不明である。

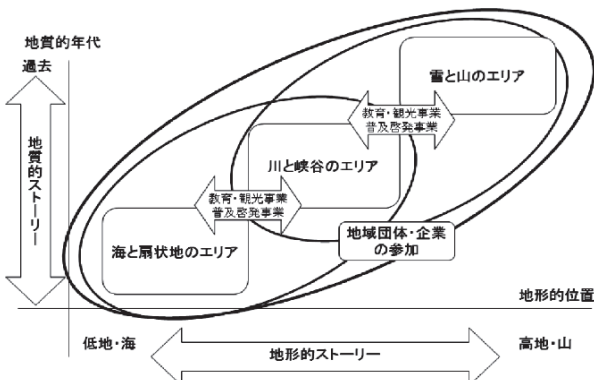


図5 白山手取川ジオパークのストーリーモデル

また、地域資源やジオ資源を活用したジオツアーは、1つのあるいは隣接した2つのジオエリアのジオポイントやジオサイトに基づく周遊として企画されており、白山市全体に及ぶジオツアーが少ないと言う欠点があった。

そのような状況のなかで、特定の観光主体が地域限定旅行業の資格を取得し、手取川流域の上流から下流に及ぶ、あるいは下流から上流に及ぶジオツアーを開始した。これは、時空間的ジオストーリーに基づくジオツアーであり、手取川流域の一体性と白山市を構成する旧市町村の地域融合を強調するものとなった。

かくして、ジオパークにおける時空間的ジオストーリーの構築によって、合併市町村の地域融合の兆しを見ることができるといえる。しかし現段階ではあくまで

単一の団体によるツアーがおこなわれているに留まっており、ジオパークが地域に資するためには複数団体での観光事業の実施・学校教育でのジオパークのPRなどを行い時空間的ジオストーリーに基づいた複数団体によるジオパークの利用が不可欠である。

その利用においては白山手取川ジオパークのジオストーリーのモデルに示されているように(図5)特定のジオエリアにおけるジオポイントやジオサイトのジオストーリーを基礎的なものとし、それらの隣接したもの同士のみならず、それらの隣接したもの同士を組み合わせたジオストーリー、さらに地域全体のジオエリアを結び付けるジオストーリーといった階層的な構造に基づいて時空間的ジオストーリーが構築される。その階層に基づいて構築された時空間的ジオストーリーが地域融合に貢献することができる。

参考文献

- 浅野 敏久. 2006. 広域合併後の流域単位のエコミュージアム～白山市・手取川流域での活動～. エコミュージアム研究 No11:121-122.
- 岩松 暉. 2007. 今なぜジオパークか. 地質ニュース 635号:8-14
- 大野 希一. 2011. 大地の遺産を用いた地域振興 - 島原半島ジオパークにおけるジオストーリーの例-. 地学雑誌 120(5):834-845.
- 竹之内 耕. 2011. 糸魚川ジオパークと地域振興. 地学雑誌 120(5):819-833.
- 白山市企画課. 2006. 白山市総合計画
- 白山手取川ジオパーク推進協議会. 2011. 白山手取川ジオパーク構想計画.
- 森川 洋. 2013. 北陸 3 県における「平成の大合併」の特徴. 都市地理学. 8 :14-25.
- 渡辺 真人. 2014. ジオパークの現状と課題. E-journal GEO. 9(1) :4-12.